

素流協 News

平成17年 5月25日
第14号

平成17年 5月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(652)7227



〃組織の充実を図り着実な前進を〃 素流協第二回通常総会を開催

岩手県素材流通協同組合の第二回通常総会は五月十二日(木)午後三時から盛岡市駅前通のホテルメトロポリタン盛岡本館で開催され、事業報告、事業計画など八議案を原案の通り承認、決定しました。

引き続き午後四時から来賓を招いて報告会が行われ、開会に当たり下山理事長は「素流協は平成十五年四月に発足されてから満二年を経過いたしました。この間、関係者をはじめ組合員の皆様のご指導・ご協力によって組織的整備が進むとともに事業も着実に進展してまいりました。平成十六年度

の事業結果は、県下二つの合板工場に四万九千六百立方メートルの素材を供給する計画でありましたが、実績が五万六千三百立方メートルとなり計画量に対して一四%となりました。これもひとえに関係者の皆様のご指導と、活発に素材を出材してくれた組合員の活動に負うものであり、心から御礼を申し上げます。これまでの成果を踏まえ、平成十七年度の事業を積極的に展開して参りたいと考えております。素材の供給計画量として八万六千三百立方メートルを見込みましたが、前年度(十六年度)の実績に比較してかなり大きな計画量(一五〇%強)となっております。この数値的根拠は十六年度に組合員が出材した実績量の一割増の量と、今年度から新たに東北森林管理局と協定を結ぶ「素

材システム販売」による国有林から供給される二万四千六百立方メートルを合わせた量であります。ただし、素材取扱い計画量が対前年度比一・五倍と数量的に大きくなるとともに、新しく国有林と協定を結んで国有林材を合板工場に供給する「素材システム販売事業」を導入することを考えると、素流協の組織の充実強化が不可欠であるとともに、役職員の一層の頑張りが強く求められるところであります。林業の活性化のためになすべき根本は、山で伐採された丸太を有効に活用する努力から始まるのであります。森林整備の過程から出てくる丸太を有効活用すること、すなわち、間伐を積極的に実施し、森林の整備・活性化を図って、そこから出てくる丸太を余すことなく有効活用する仕組みが必要であり、そのような仕組みの中で素流協が一定の役割を果たすことができれば素流協の存在意義があるものと考えます。平成十七年度においても、新たな気持ちで事

業を実行し、計画を達成したいものであります。そのためには組合員の協力と、熱心な生産活動が不可欠であるので、よろしくお願い申し上げます」と挨拶した。

このあと、山崎弘専務理事の総会報告があつてから、来賓各位の祝辞が述べられた。

十七年度事業計画の概要については、次のとおりであります。

(1) 共同販売事業

国有林から購入した素材および組合員が出荷する次の素材を共同販売する。

▽合板用素材（カラマツ・アカマツ・スギ）

- ・国有林材（システム販売） 二四、六〇〇立方メートル
- ・組合員出荷材 六一、七〇〇立方メートル
- ・合計 八六、三〇〇立方メートル

(2) 県産材利用拡大推進事業（国の補助事業）

県産材利用促進を図るため、計画的・安定的に供給する体制

整備に取り組む。

① 需給協議会の開催…年四回

② 素流協ニュースの発行…各月一回

③ 原木流通調査委員会の開催…年三回

(3) 教育及び情報に関する事業

組合員の事業に関する知識・技術の向上、経営の合理化を図るため次のことを行う。

① 労働災害防止活動の指導…随時

② 業界及び市況に関する情報の提供…素流協ニュース月一回発行

③ 丸太採材技術講習会の開催…二回（宮古市、大船渡市各一回）

(4) 福利厚生に関する事業

組合員の福利厚生の向上と組合員相互の連携・強調・融和を図るため次のことを行う。

① 林業退職金共済事業への加入促進…随時

② 交流会の開催…一回

今月のトピックス

素流協からのお知らせ
手数料率改定について

平成十七年五月十三日付けで、総会報告同封等にてすでにご案内いたしておりますが、

(1) 組織・体制の整備・充実を図り、事業運営の円滑な実行を担保するため。

(2) 機動力の充実を図るため。

(3) 事務機器およびソフトウェアの補充強化のため。

などの理由により現行の手数料率、販売代金の二・五％を三・五％に改定することになりました。適用は、五月一日以降出荷される丸太からとなります。

なお素流協はこれからも会員のための協同組合として、誠心誠意、事業運営に鋭意努力を続けて参りますので、今後ともよろしく願ひいたします。

ヒロシの独白

『ある随筆を読んで……』



筆者の好きな作家の一人に曾野

狙う「ごっこ」なのである。ほん

働きかけ等々あらゆるものが「イ

綾子さんがいるが、つい先だって

とうに犯罪を防ぎ、犯罪者に仕事

「ごっこ」に染まっている気がしてな

この作家の随筆をある新聞紙上で

をしにくくするためではなく、こ

らなないのである。たとえば、最近

読んだ。その記述内容に「その通

れも一種のショーなのである。そ

よく使われる「人と森林との共生」

り！」と思わずわが膝を叩いたの

うでないなら、こうした報道をし

という言葉であるが、本紙先々月

である。少し長くなるがその要旨

たNHKの非常識はきつく責める

号(第十二号)の『落穂拾い』欄

を記してみると、某県某市で、犯

べきだし、逆に市にそういう姿勢

にも取上げられているように、学

罪防止のために市の職員が夜間パ

があったらおかしいと思う感覚が

術用語の「共生」を安易かつ気楽

トロールを行うことになったが、

NHKにもあってしかるべきだろ

に用いているのではないかと考え

この内容をNHKが「火曜日と木

う」とも述べている。この曾野さ

るのである。たまたま、人と

素流協より
今年四月、左記の方が新たに素流協の会員となりましたのでお知らせいたします。
一、住所 岩手県岩手郡西根町平笠十一一
六四一二
会社名 伊藤林業
代表 伊藤正一
入会日 平成十七年
四月二十一日

ゼロ災でいこう
ヨシ!
さあ、「林材業ゼロ災運動」に取り組もう!!

落穂拾い

▽昭和四十九年、フィリピンのルパング島から三十年ぶりに小野田寛郎さんが帰国した。長い間、危険に満ちた密林の中で人目を避けて孤立した生活をしてきただけに、「自然」に対する洞察力・感覚の鋭敏さはさすがである。彼は、「自然は、すべての人に対して公平であり、自分が有利に自然を味方にするということは自然を熟知する以外にない」と述べている。われわれが、環境資源として森林のもつ種々の公益的機能を十分に発揮させ、有効に活用するためには森林(自然)を熟知しなければならぬということであろう。

▽国内の合板工場では国産丸太を原料とする製品開発が進み、この二〜三年急激に国産材の使用量が増えてきている。合板工場は原木を大量に使用するので、今後は原木供給側のロットを大きくして、合板工場に大量の原木を計画的・安定的に供給する仕組み(システム)を構築することが不可欠の要件となる。宮城県石巻市にある合板工場には、宮城県森林組合連合会と素材生産協同組合が窓口になってロットの拡大を図り、需要者の安定供給についての要求に応えるようにしているし、秋田県においても、大略宮城県方式で県下の合板工場に原木供給を行なっている。岩手県は、県下の素材生産

平成17年4月の販売実績

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷した合板用丸太の平成17年4月の販売実績は下記のとおりです。

4月の北日本プライウッド(株)への出荷は先月の過去最高をさらに上回る2,741m³となり、ホクヨープライウッド(株)と合わせても、過去最高の6,532m³となりました。今年度の計画量であります86,300m³に向けて、幸先のよいスタートとなっております。梅雨入り間近ですが、今後も積極的な出材をお願いします。

項目	長級	径級	販売先		計	累計	出荷割合	
			ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)			樹種毎	樹種毎
スギ	1.9	14上	1,465	1,140	2,605	2,605	60.7	
	4.0	14上	713	974	1,687	1,687	39.3	
	計		2,178	2,114	4,292	4,292	65.7	100.0
カラマツ	1.9	14上	1,299	171	1,470	1,470	98.2	
	4.0	14上	20	7	27	27	1.8	
	計		1,319	178	1,497	1,497	22.9	100.0
アカマツ	1.9	14上	267	428	695	695	93.4	
	4.0	14上	28	21	49	49	6.6	
	計		295	449	744	744	11.4	100.0
サワグルミ	1.9	18上			0	0	0.0	100.0
合計			3,792	2,741	6,533	6,533	100.0	100.0

業者を組合員とした素材流通協同組合を創設して、宮古市と大船渡市に立地する合板工場に計画的・安定的な原木供給を行なっている。いずれにしても素材生産活動を活性化させるためには、大型化する原木消費者(合板工場や集成材工場)の要望する大量・計画的・安定的供給態勢を備えることが必要になってくるであろう。

業者を組合員とした素材流通協同組合を創設して、宮古市と大船渡市に立地する合板工場に計画的・安定的な原木供給を行なっている。いずれにしても素材生産活動を活性化させるためには、大型化する原木消費者(合板工場や集成材工場)の要望する大量・計画的・安定的供給態勢を備えることが必要になってくるであろう。

小さな火 山に捨てると 大きな火

(平成17年度全国山火事予防運動統一標語)

春は空気が乾燥して、風の強い日が多いため、山火事の起こりやすい季節です。山火事はそのほとんどが、人の手によって発生しています。山火事防止は皆さん一人一人の小さな心がけから始まります。山の緑を火災から守りましょう。皆さんのご協力をお願いします。